

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&Pr ef Cd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人ひとりが その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し尊厳が守られるケアを念頭に置き支援に 努めている。また 重症化の状況にも対応しご家族様や主治医と連携を図りながら終身まで看取りらせていただく体制作りをしています。常日頃よりご家族様からの相談や要望にも耳を傾け御本人のみでなくご家族様にもご満足いただけるケアが提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者には、「住み慣れた地域とかかわりながらその人らしく生き抜いてもらう支援をする」、という理念に沿った介護を心がけている。利用者の意向や思いに応じて、出来る力を活かした介護計画が作成されている。事業所のケアのレベルアップを目指し、利用者アンケートをとり、それを運営に活かしている。身体拘束をしないケアに取り込み転落の危険性のある利用者には、ベッド横にマットを敷いて工夫をし、また言葉による拘束にも気をつけている。その人のプライドを大切に、食事中に汚れた衣服交換も、「着替をしましょう」という言葉を使わず、『手伝わせてください』という表現で介助している。昼間は、リハビリパンツで過ごせる介護も実践している。重度化や終末期の対応は、家族、利用者、職員、医師など関係者と話し合いがなされ、看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議に運営理念 職員の心得の唱和をするとともに 理念を全職員で共有し実践するよう日々意識するように努めている。	理念はケアの方向性を示すものとして全職員で唱和している。日常のケアの中で相手の立場になって考える事を意識し、利用者が地域の中で関わりを持ちながら、楽しく生きていけるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店に出向いたり気候の良い時期に花見に行ったり 周辺を散歩するように努力している。2つの保育園との交流があり七夕、クリスマス会など一緒に楽しんだり運動会にも一部参加し交流している。	散歩時の声かけや地域行事への参加、園児との交流がある。自治会員にはなっているが、自治会との日常的交流はない。また同じ敷地にある地域密着型事業所との交流はあるが、近隣地域とは自治会の役割を担うまでの交流はない。	行事参加のみならず、近隣地域の一員として交流してほしい。利用者自身が地域の役割を担えなくても、事業所として、肩代わりをし日常的交流が出来るように支援してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所後のご家族や面会に見えた方や地域の方に対して認知症方の介護や支援方法について等アドバイスやサービス利用についての情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において活動状況や取り組みを報告することによりお互いを高める刺激になっている。またご家族や地域の方の意見を伺いサービス向上に生かせるよう努力している。	合同会議の後、各事業所ごとに別れて話し合っている。消防署、駐在所、家族などが参加し、国体用のひまわりの花を事業所で育てる意見や、駐車場が狭いなどの意見をもらい取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。	地域密着型事業所に入居希望の人についての手続きの相談や、事故や事業所の入居実情などを報告している。運営推進会議の土日開催などの希望を伝え、可能な限りの開催に協力を得るなど、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されているご利用者様に拘束をしない対応を工夫し心がけている。	毎年、内部研修を行い理解している。転落事故の危険性のある人には、ベッドを4本柵で囲わず、床にマットを敷き予防している。一人ひとりの性格を理解し、その人にあった話しかけや対応するケアを行う事により、言葉による拘束にも気をつけ取り組んでいる。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に職員会議で勉強会を実施し正しい知識を理解するように話し合い検討するような管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回権利擁護の研修会には参加できておりませんが 前回の研修の資料を参考にして勉強会を行い制度について理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には、話しやすい雰囲気作りにも努めている。ご意見を頂いた時は職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。	職員は、家族に利用者の日常の様子を細かく伝え、信頼関係を築けるように工夫している。事業所としては、無記名アンケートを取り、外出支援回数の増加希望を知り、すぐに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からでた意見が トップに反映するよう意見の出しやすい雰囲気作りにも心がけている。	職員は意見をユニットの管理者に伝え、その人から統括管理者や代表者に伝えるなど、意見を伝えやすい環境作りを工夫している。勤務調整や、物品購入、夜間暖房などの意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会の 年間計画を立て全職員がスキルアップできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議で毎月会議と勉強会を実施することで当事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において生活状況や家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちに耳を傾け受け止めながら入所生活に行かせる信頼関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からこれまでの経緯についてゆっくり話し合いながら早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い状況等相談確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い必要としている支援に沿えるよう相談を繰り返すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の思い苦しみ不安喜びなど傾聴、共感とともに支え合える関係を気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月等ご家族様と一緒に過ごされる利用者様があり送迎等の支援や人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。	ケアの中でわかったことや、家族の情報から馴染みの人を知り、その人の利用している隣接のデイサービスへ利用者と共に訪問し楽しいひと時が過ごせるようにしている。馴染みの喫茶店や、美容院の利用を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で会話し楽しくお食事ができ散歩日光浴等関係が円滑になるよう働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まい(他の施設、在宅)に移られた場合でも相談に乗ったり状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ言動などから思いや意向の把握ができるよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合はご家族からの情報をもとにケアに生かすようつとめている。	家族から情報を聞いたり、日ごろから穏やかに見守りをしたりする事により、同じ単語(ア)を聴いても声の調子や状況などを考え、思いを把握している。食事時は口に運ぶ速さや、飲み込む速さにより味付けや食物の好みを察知する事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつご本人や御家族様等のかかわりの中で生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズム心身状態を記録し職員が情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成できるようにご本人やご家族に日々の生活の中で思いや意見を聴き職員会議で意見交換している。	皆で介護計画を作り定期的に見直しをしている。介護記録の中に計画の目標を記載し、毎日、実施されているか確認できる仕組みがある。変更の必要時は速やかに対応し、家族に連絡して新しい計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量、水分量、排泄状態等身体的状況、日々の暮らしの様子を記録し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎、家族の方への夕食の提供をする等柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報の交換、協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時入所後もご本人、ご家族の希望を確認しながら協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している状況に応じて家族の代わりに受診の付き添いも行っている。	入居前のかかりつけ医には、家族とともに受診している。家族の都合が悪い時は職員が付き添って受診を支援している。受診の結果は看護師が把握し、家族や協力医と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調変化や健康管理に注意を払い早期の段階で家族に報告し協力医療機関へ受診、投薬できるよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携を図り情報提供するよう心がけている。入院中でもできるだけ見舞い早期に退院支援に結びつけられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時などは、家族と話し合いを重ね確認している。その時々協力医、協力病院と話し合いながら対応している。	入居時に、重度化・終末期の支援の方針を記した冊子を渡して説明している。重度化に近づいた時から再度家族と打ち合わせ、支援の方針を確認し、看護師が中心となって協力医などと連携を取って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようにマニュアルや連絡網を作成し設置している。救命訓練を実施し指導がうけられるよう取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し周辺の福祉施設、市町村、警察署との継続的な協力体制と地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結びつけられるように努めている。	夜間想定避難訓練を推進委員にも見せられて実施し連絡網を整備している。長期水害対策として水・食料・介護品の備蓄や、受入先として医師会病院・老人保健施設にお願いしている。しかし、近隣地域の協力体制が確保できていない。	住民区域から道路を隔てた位置にホームがあるため、近隣地域との接触が難しいが、運営推進会議の議題とするなど、地域の協力体制が築けるような工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊厳の念をもって接し人格を尊重し誇りやプライバシーの確保は常に保てる様対応している。	言葉使いやトイレ誘導時に羞恥心を損なわない対応方法、パッド交換時にカーテンやトイレドアを閉める等、職員間で話し合い、対応に努めている。居室へ職員が入室する時は、ドアが開いていても、必ず声かけを行い許可を得てから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人が話す内容や表情で真意を推し量り情報の共有に生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の1日のサイクルを把握し体調考慮し過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服は毎回すぐに交換し御本人、ご家族の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みの物を把握し季節のものを嚙下状態に応じて個別の食事形態にて提供している。	利用者の好みや形態に配慮した食べやすいメニューを職員が考え、手作りしている。介護度の高い人が多いが、職員と一緒に介助しながら食事をして会話をはずませ、楽しく食事が出来るようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は介護記録に記入し個々のペースにあわせて提供している。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりその方に合わせた口腔状態の観察ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しご本人の表情やサインを見逃さず排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から利用者の排泄パターンを知りトイレ誘導し、おむつが必要な人も昼間はリハビリパンツで過ごしてもらっている。二人介助が必要な重度の方でも、昼間は全員がトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分量の確認、個々の思考に添った飲み物提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自分のペースでゆっくり入浴できるよう工夫している。一般浴困難な方は、機械浴に行っている。	希望される日や時間に入浴ができるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯、多種類の入浴剤を用意したり、一緒に歌をうたったりして楽しい入浴となるよう支援している。一般浴が困難な人には、隣のグループホームで機械浴を借りて全員が入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や体力を把握し日光浴や適度な昼寝を行うなど休息安眠できるようなところをけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は確認しやすいようにしている。内容を理解し利用者の状態に応じて、確実に服薬できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のかかわりの中で出来ることを見出し気分転換につなげている。新聞折、お盆拭き等		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に他の施設に出掛ける。近くに散歩 天候や体調に応じて行っている。	利用者の希望に合わせて散歩や喫茶店、レストランに車いすの人も一緒に日常的に出掛けている。重度の利用者はおやつの時間に玄関前の広場で外気浴を楽しんでもらっている。行事として普段いけない木曾三川公園、花見、フードコート等に職員と一緒に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないように ご家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいように声掛けし直接お話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり生活観が伝わる空間作りを心がけている。	明るい居間や廊下には、季節の花、行事の写真、習字等の利用者の作品を飾って季節感を出している。また、利用者が好みの場所でゆっくりとくつろげるようにソファや椅子が配置されている。加湿器で湿度調節もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは仲の良い方が 近くで話し合えるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使用されていた品、使い慣れたもの、精神的に負担がかからないよう工夫している。	居室の入り口には、デザインの異なる暖簾や好みの飾りを配置して個性をだしている。使い慣れた物が持ち込まれ、家族の写真、利用者の作品、職員が全員にプレゼントしたお雛様の作品等が飾られ、その人らしい部屋となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、D2を用いて利用者様の出来る力の把握に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議に運営理念 職員の心得の唱和をするとともに 理念を全職員で共有し実践するよう日々意識するように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店に出向いたり気候の良い時期に花見に行ったり 周辺を散歩するように努力している。2つの保育園との交流があり七夕、クリスマス会など一緒に楽しんだり運動会にも一部参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所後のご家族や面会に見えた方地域の方に対して認知症の方の介護の支援方法について等アドバイスやサービス利用についての情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において活動状況や取り組みを報告することによりお互いを高める刺激になっている。またご家族や地域の方の意見を伺いサービス向上に生かせるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されているご利用者様に拘束をしない対応を工夫し心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に職員会議で勉強会を実施し正しい知識を理解するように話し合い検討するような管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回権利擁護の研修会には参加できておりませんが 前回の研修の資料を参考にして勉強会を行い制度について理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には、話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見を頂いた時は職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からでた意見が トップに反映するよう意見の出しやすい雰囲気作りに心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会の 年間計画を立て全職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議で毎月会議と勉強会を実施することで当事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において生活状況や家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちに耳を傾け受け止めながら入所生活に行かせる信頼関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からこれまでの経緯についてゆっくり話し合いながら早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い状況等相談確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い必要としている支援に沿えるよう相談を繰り返すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の思い苦しみ不安喜びなど傾聴、共感とともに支え合える関係を気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月等ご家族様と一緒に過ごされる利用者様があり送迎等の支援や人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で話し楽しくお食事ができるようまた散歩や日光浴等利用者様同士の関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まい(他の施設、在宅)に移られた場合でも相談に乗ったり状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ言動などから思いや意向の把握ができるよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合はご家族からの情報をもとにケアに生かすようつとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつご本人や御家族様等のかかわりの中で生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズム心身状態を記録し職員が情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成できるようにご本人やご家族に日々の生活の中で思いや意見を聴き職員会議で意見交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量、水分量、排泄状態等身体的状況、日々の暮らしの様子を記録し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎、家族の方への夕食の提供をする等柔軟な支援に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼びかけ周辺情報や支援に関する情報の交換、協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時入所後もご本人、ご家族の希望を確認しながら協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族の代わりに受診の付き添いも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調変化や健康管理に注意を払い早期の段階で家族に報告し協力医療機関へ受診、投薬できるよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携を図り情報提供するよう心がけている。入院中はできるだけ見舞い早期に退院支援に結びつけられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時などは、家族と話し合いを重ね確認している。その時々協力医、協力病院と話し合いながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようにマニュアルや連絡網を作成し設置している。救命訓練を実施指導がうけられるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し周辺の福祉施設、市町村、警察署との継続的な協力体制と地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結びつけられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りや人格を尊重して言葉かけ等については会議で話し合いご本人の気持ちを大切にさりげないケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方にあわせ声掛けし日常の中で表情や反応を注意深くキャッチしながらご本人の選びやすい場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしてそれに合わせた対応を心がけている。またその日の体調、様子を見ながら希望を尋ねたり相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本にご本人の意向で決めているが御自分で決められない方は職員が行っている。美容院で希望にあわせたカットを行う支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを工夫したり季節の行事の料理を取り入れたり昔ながらの料理など楽しみながら食べていただけるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と1日の摂取量を把握している。食事量、水分量も個別にあわせて確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所に行っていただき一人ひとりに声掛けし見守り時には介助し毎食後ケアを行っている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握しトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し利用者の排便を把握し水分摂取の提供や個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	言葉かけや対応の工夫をし入浴日に入っただけ。また一般浴に入れたい方には機械浴に入っただけ。気分を変えリラックスしていただけるよう入浴剤なども入れる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は、活動を促し生活のリズムを整えるよう努めている。また体調によって声掛けを行い休息していただくようつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能副作用の説明ファイルを保管し職員が内容を把握できるようにしている。服薬後にきちんと服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事頼み感謝の言葉を伝える。お茶パック詰め、新聞折等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散の為外気浴、外でのティータイム、近くの喫茶店に出かけられるよう支援している。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額の所持金を持っていたりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により家族に電話しやすいように声掛けを行う。また、かけられない場合は職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事で行った写真などを活用しながら暮らしの場を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされる時は仲の良い方同士がくつろげるよう工夫している。また椅子や机の配置を工夫してゆったりと過ごせる様区間の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やなじみの品や思い出の品またお位牌や家具など思い出のものを置いて頂き居心地よく安心して過ごしていただくよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時はその都度職員で話し合い本人の不安を取り除き自立支援につなげられるよう工夫している。		